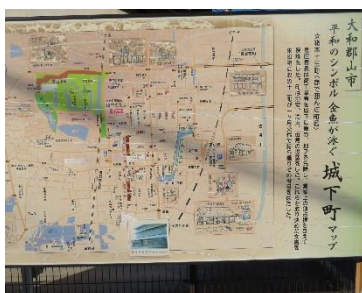


大和郡山城 奈良県大和郡山市城内町

織田信長の時代に筒井順慶の築城(1580年)に始まる大和でもっとも大規模な城郭で、豊臣秀吉の時代に豊臣秀長が百万石の居城とし、水野家、松平家、本多家、柳澤家の居城となりました。城郭は徐々に整備されましたが豊臣秀長の時代にほぼ完成し、増田長盛(ましたながもり)の外堀普請によって城郭の規模が定まったとされています。すなわち、郡山城は内堀、中堀、外堀という三重の堀に囲まれた惣堀(そうぼり)の構えを持つものであり、この中に城郭の中心部や武家地、城下町が配置されたのでした。現在、天守は残っていませんが、天守郭、毘沙門郭(びしゃもんかく)、法印郭(ほういんかく)などの城郭中心部は奈良県の史跡に指定され、内堀や石垣が良好に残っています。近年、追手門・追手向櫓・東隅櫓などの門や櫓(やぐら)が復元され往時の威容をしのぶことができるようになりました(パンフ等)。



城下町の全体案内版



金魚の生け簀と金魚のマンホールなど金魚が多い



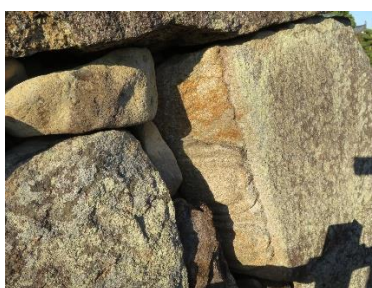
追手向櫓



追手門(梅林門)



石垣



転用石が多く使われている





お地蔵さんの石が石垣に使われているのが同城の特徴



天守



濠



城内に柳沢神社(甲府城から転付された柳沢吉里を祀る)

同城の説明版